

## 資料①：第 2 回会議の議事録

平成 27 年 12 月

南城市

## 1.平成 27 年度上半期の実証運行の評価と今後の対応について

委員	事務局
<p>年間3,000万円の費用負担が生じていることから、今後、南城市がデマンドバスを継続的運行できるかという観点で、運行計画を検討して欲しい。</p>	<p>持続できる地域公共交通を第一に考えている。効率化とともに、デマンドバスの運営を通して、地元にお金が落ちる仕組みづくりも考えていきたい。平成30年度を目標に、市内で運行を担える組織づくりも検討したい。</p>
<p>平成23年度の市内交通公共負担額241万円/月とデマンドの費用負担が同等と記載されているが、巡回バスやスクールバスの運行をとりやめているのか。</p>	<p>巡回バスやスクールバスは現在も運行している。ただし、将来的に「おでかけなんじい」が、庁舎間巡回バスを吸収する形での運行は視野に入れている。</p>
<p>地方創生とデマンドバスの関係を教えて欲しい。</p>	<p>案の段階であるが、地方創生の計画に「デマンド」を盛り込んでいる。年明けの本会議(2/4 予定)にて提示したい。</p>
<p>向陽高校までの運行が検討されているが、校内で携帯電話は使用できるのか。また、向陽高校生の予約方法について教えて欲しい。</p>	<p>授業中以外であれば、携帯電話は使用できる。9月に行った向陽高校でのアンケートでは、予約に関する要望等はないため、従来通りの電話のみでの対応を考えている。</p>
<p>削除案が示されているが、サービスを辞める又はサービスの水準を下げると判断するには期間が短すぎる。サービスの水準を下げるのであれば、1.5人になれば辞めるといった基準を設け、利用者とコミュニケーションを図りながら、検討すべきだ。</p>	<p>削除案については、今後、さらに検討を続けたい。利用者に基準を下回れば減便、運休することの周知を図りたい。</p>
<p>回数券利用者の試算は、既存利用者の利用回数の増加分を見込んでいるのであれば、アンケートで、もともとの外出頻度が高い方は利用回数が増えないという結果があるため、これとの整合をとる必要がある。</p>	<p>資料は既存利用者の利用回数の増加を見込んで試算している。現状の利用状況と導入時の利用意向などもう少し丁寧にデータをみて、試算の精度を高めたい。</p>
<p>ユインチホテルや病院の待合室でポスター掲示や、チラシ配布を行ってみてはどうか。市外の病院で「おでかけなんじい」と路線バスの乗り継ぎ情報を提供してもよいのでは。</p>	<p>病院での広報活動は行っていない。市外の病院での広報は、今後の課題としたい。広報活動としては、観光客への利用促進に向け、観光地での看板設置を行った。また、市広報誌での広報も予定している。</p>
<p>市外の向陽高校、大里入口バス停までの運行は、本協議会のみでの決定では不十分であり、関係市町村との合意が必要となるため、その点に留意して調整を進めて欲しい。</p>	<p>八重瀬町には事前説明を行い、本日、交通担当職員の方にも参加していただいている。</p>

委員	事務局
市外まで運行すると路線バスに影響がでないか。	人口が一番密集している大里地域では那覇に繋がる路線がない、又は少ないため、デマンドバスで大里入口バス停まで運行し、那覇行きのバスとの連携を図りたい。市外の運行を検討する際は、既存の公共交通への影響を考慮する。

## 2.平成 27 年度後半の運行計画(案)について

委員	事務局
向陽高校までの運行を行うにあたり、関係するバス会社との調整は行っているか。	事前にバス事業者との調整は行っていない。運輸局の指導を仰ぎ、八重瀬町への説明は行った。
高校生がどのくらい利用するかはわからないが、一般利用者への影響は考えられるか。	向陽高校生の下校時間は、デマンドバスの利用者が少ない18～19時に集中していることから、一般利用者への影響は小さいと考えている。後半の実証運行の中で、高校生の利用時間帯を把握し、4月以降の本格運行の形態を検討していきたい。
バス事業者も合意ということで、平成 27 年度後半の運行計画に向陽高校までの運行を追加すると決定してよいか。	市外への運行の際の関係者との調整は、反省事項とする。 今後は、平成 28 年度本格運行へ向け、検討、準備を進めていきたい。